

平成30年度入学試験問題（前期日程）

小 論 文

教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース

学校教育専攻

注 意 事 項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、150分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

次の文章を読んで、以下の各問に答えなさい。

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

(好井裕明, 「排除と差別の社会学を考える2つの基本」, 好井裕明編『排除と差別の社会学〔新版〕』, 有斐閣, 2016年, 4~21ページ, 抜粋・一部改変)

問1 下線①「差別のない社会」を利用する」とはどのようなことか。本文中の語句を適宜用いながら 150 字以上, 200 字以内で述べなさい。

問2 下線②「普通であること」をつくりあげる実践的な知のなかに差別する可能性の契機が満ちている」とはどのようなことか。あなたがこれまで過ごしてきた学校生活を振り返り, 具体例を挙げながら 350 字以上, 400 字以内で述べなさい。

問3 筆者は, 下線③「今こそ, 本気で差別を考えることができるような文化を創造していく必要がある」と主張している。筆者のいう「本気で差別を考えることができるような文化」の趣旨を述べた上で, このような文化を創造するために小学校においてどのような教育が望ましいか。あなたの考えを 700 字以上, 800 字以内で述べなさい。

平成30年度入学試験問題（前期日程）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース

学校教育専攻

出題の意図

学校教育専攻では、アドミッションポリシーに基づき、(1)教員として主体性を持ち、子ども及び社会と関わっていききたい人、(2)教育の理論と実践を広く深く学ぶ意欲のある人を求めている。

この問題の題材は、社会全般における差別の可能性について述べたものである。

問を通じ、①問題文の趣旨を読み取る読解力、②自分の意見を論理的に表現する力、③差別という問題を学校教育にあてはめて考えてもらうことで、子どもや学校に関わることについての興味や関心の程度をみる。